



角山学長挨拶



学長
角山 茂章

会津大学は創立から14年目を迎えましたが、卒業生の皆様の社会での活発な活躍、個性のある教育機関として国内外での本学の存在感、また福島県から期待されている社会貢献についてのしかるべき成果が見えるようになり、期待に応えることができつつあると私は考えております。これは一重に卒業生の皆様の社会での努力の賜物であり心より感謝します。

さて本学の最近の動きを以下にご報告させていただきます。この4月には法人化を迎え運営上の柔軟性が増し、様々な動きが柔軟に行えるようになり、教育、社会貢献と従来と異なる活動を開始しました。

まず、教育分野の改革ですが、長年議論が続いていたカリキュラムの改定につきましては国際性を標榜する本学として、最近発行されたACMのガイドラインに準拠した内容に基づき現在鋭意準備中で、近々その内容を発表できる予定です。また大学院の改革にも着手しました。来年度から、自主的に修士と卒業生を中心とした社会人の再教育の場として活用できるよう積極的に整備していきます。

次に社会貢献ですが、本学には地域への貢献がますます求められています。その中で、本学関連のベンチャー会社は19社となり、福島県から本学への交付金に匹敵する額である35億円の売り上げを上げられるようになりました。酒造関係が42億円ですので、その規模に早く到達したいと思っています。それを進める手段として法人化に伴って産業界とはタイムリーに連携しやすくなり、先ず全国にネットワークを有する商工組合中央金庫福島支店との産学連携協力推進協定の締結を行いました。取引先企業の様々な技術ニーズ情報を有する商工中金と研究成果等のシーズを有する本学とが、緊密な情報交換を通じて、地域の中小企業にスピーディーな情報提供が可能になりました。一方では、グローバル企業のマイクロソフト株式会社らとIT産業活性化事業に関して包括基本協定を締結しました。県内のIT産業の活性化に向け連携することを目的とし、『.NET講座』を開講して学内外から20名を集め、最新のプログラミングを学んでもらっています。今後、ITサマーキャンプ(仮称)を開き、ITの未来について民間の技術者と本学教員が交流する場を設ける予定です。

今年の10月には日経新聞社でWeb2.0というテーマで、Google日本社長、同窓会上野会長にも参加していただき大学の広報を行いました。是非、本学の発展のために同窓会の更なるご支援を賜りたく今後ともよろしくお願ひいたします。

上野会長挨拶



同窓会長
上野 文彦

会津大学同窓会もおかげさまを持ちまして、本年で4年目を迎えております。どうかこの3年間、特に問題を起こすことなく無事に乗り切れたことを、また徐々にではありますが同窓会組織としての機能を果たすことが出来るようになりましたことを、理事、事務局、会津大学学生課様、会員皆様のご協力によるものと、一重に感謝する次第でございます。

組織がスタートアップからやがて機能をもち構成されるのに、凡そ3年程度で一区切りを迎えるというのを聞くことがあります。私にとりまして、同窓会で3年を迎える中で一つの達成を感じるころがございます。皆様におかれましては、「同窓会で何をやっているの?」「そもそも同窓会があるなんて知らなかった。」「もっと活躍して欲しい」と言われる方がまだまだ多数おられる事と思います。その点において達成という言葉を用いるのには、素直に申しまして、おこがましさを覚えるころもありませんが、若干ながら進んだ、できたものがございます。

私自身、同窓会長をお引き受けさせて頂いたときに、ひとまず、きわめて常識的な業務をステディーに行なえるようになることを目標に致しました。そして、その常識的な業務というものに3つを掲げ、必ず年一回の定時総会・懇親会(通常、定時総会時に併催)の開催、年一回の会報の配布、最後にホームページの開設と運用と致しました。当たり前すぎる目標において例えば、会津大学同窓会の個性を發揮しなくてはいけない、というお叱りの声を頂いたこともありました。以前までの期間の間、なかなか同窓会が立ち上がらなかった経緯を、同窓会の設立準備を致しておりました、開設当時の3年前の学生課の方などから伺いますと、きちんとした設立の上、きちんとした継続を当初の目標といたしました。

現在、これら3つの事業においては多くの方のご尽力により、結果同窓会機能としてステディーに行なえるようになりました。小さな事ではありますが、基本的なことでもありますゆえ、恐れながら達成感を覚える次第でございます。

本来同窓会というのは、卒業生をはじめ、広くは在校生や大学そのものの価値向上を目標とし、また卒業生を中心に、会津大学を縁とした多くの方々の交流の場の提供というのが使命であります。ようやく地固めが済んだものと現在を捉えることで、「出会いから感動を」と定めた同窓会の理念にむかい、これから心機一転、新たにスタートする所存でございます。

具体的には、まず支部の活性化を果たしたいと思っております。この3年間同窓会理事会では、初期段階での構築ということで、理事会を中心とし事務局機能のある会津を中心に活動をしてまいりました。それにより確固たる進展を選択したためではありますが、これからは支部の役割の強化により、より皆様の身近で同窓会の活動を行いたいと考えて

おります。支部は現在、東京、会津、仙台、大阪とあります。これらの各所において徐々に年一回、定期的に交流会を開催していこうと考えております。継続的に毎年、永遠に同窓会交流会を開催することで、大学という人生においてきわめて大きな経過点を継続的な関係に出来るよう、皆様に提供してまいりたいと考えております。

また、幾つかの事業に関しても検討が始まりました。理事会では、社会人となった私たちが、会津大学の学生に対して講座を持ち、より実践的なコンピュータに関する講義や、会社でのお仕事を学生に伝える場の提供なども具体化していこうと言った意見が出ております。

現在、支部に展開が始まることで、理事の不足が問題にもなっております。まだまだ同窓会はスタート段階にございますので、理事など、皆様の運営側への参加も期待する次第にございます。今後も、同窓会の活動にご理解賜り、ご協力くださりますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

.....今年の会津大学の風景.....



今年の会津の冬は、全国的な暖冬の影響から降り積もる雪は少なく、過ごしやすい冬でした。上の写真のように暖かな日の光が射し、日増しに春らしくなる会津は、ここが雪国であることを忘れさせてくれるほどの陽気があります（写真左上：校門 右上：研究棟 左下：学生棟 右下：グラウンド）

角山学長インタビュー

1. 学長就任1年目でしたが、特に力を入れたことなど教えてください。

今年度は、まず高校生の募集に力を入れました。大学の経営の基盤は高校生ですので、この大学の円滑な経営、研究の発展等の為に必要不可欠です。そこで、県内の高校生に会津大学をアピールする為に高校を回りました。訪問の際には、相手側の方で学長が来るとは思っておらず、大変驚かれることが多々ありました。しかし私としては精一杯アピールし、一人でも多くの高校生が会津大学を目標に定めるように出来る限りのことはしたつもりです。また福島市周辺の高校の卒業生である会津大学生は、母校で講演をしてもらう予定です。

第二に会津大学を全国で、特に東京圏内での知名度を向上させることです。平成18年10月30日に、日本経済新聞社の本社のホールで会津大学のフォーラム「Doing Local Challenging Global」を開催しました。今回開催にあたり、googleジャパンの村上社長、会津大学からは代表として一期生同窓会代表の上野氏、他ベンチャー系の有名な方々にご協力いただきました。この「Doing Local Challenging Global」は同年12月2日の日本経済新聞の全国版にも大きく取り上げられ、全国に会津大学の存在が広まったと思われます。このフォーラムは、最先端のネット環境「web2.0」が将来どの様なものになるかということについて話し合うことが目的でした。この様なフォーラムは今後も度々行われることでしょうか。そうした機会を上手く活かせればと思います。

第三に、学内における改革です。現在、大学院と学部には不連続な部分が存在します。そういった部分を改善し、学部と大学院とで円滑にやり取りが出来るようにしたいです。また大学院では、文部科学省からITの専門家を養成する先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム(ITスペシャリストとは、システム上の問題解決に関わるシステム設計、構築/導入およびテストを実施する職種)の公募がありました。会津大学は全国数十校の中で最終選考の10校の内に残りましたが、指定校としての6校には残れませんでした。会津大学としては、カリキュラムや研究内容などの面でも他大学に引けを取らないと感じているので、国からの援助が受けられず小規模ではありますが、ITスペシャリストの専門的なカリキュラムを実施したいと思っています。その際も、社会人にとって再教育できるレベルで充実したものにしたいので、同窓会の方々にも是非参加してもらいたいと考えております。学部では、昨年ACMから新しいカリキュラムのガイドラインが出されたので、それに従い近々改定案を提出予定です。具体的には、基礎を主体とした今までのカリキュラムに加えて、ソフト・ハード共に応用面に富んだ、学生の希望に合った専門的分野を増やす等です。

2. 会津大学は今年度法人化をしましたが、どのような一年でしたか。

一言で言うと、忙しい一年でした。今年度からの法人化に伴い、教授、講師の募集に新たな形式を取り入れました。今まで教授を募集する時は、福島県に申請し許可を得て

から募集していました。また講師の場合、たとえ教授と同じ教科であっても再度手続きをしなければなりません。更に、公募の記事を掲載するのに依頼してから3ヶ月程かかるので、その都度多大な時間を労します。それに比べ、現在では会津大学の教員という形で募集をかけ、必要な分野に合った人を選び採用し、教授や講師のどちらにするかは選考後に決定します。それによって、県との手続きを一括で済ませられ、記事の掲載も一度で済むの時間を短縮できるようになりました。また、これにより迅速に教員を採用できるため、良い教員の獲得につながります。

学生に対しては法人化前よりも予算を出来る限り削減し、海外派遣などに使う資金にまわせるようになりました。今年度はローズハルマンに会津大学生が行き、高評価をいただきました。更に、海外の大学とのデュアルディグリー制度を以って、学生がコンピューターだけではなく医学等の様々な分野に手を出せることが出来れば良いと思います。その為にもっと多くの海外大学との協定を進めていきたいと思います。

また会津大学では、マイクロソフトとの協定締結をしました。その延長線上でITの将来を議論するサマーキャンプを企画中です。今まで、会津大学ではパソコン甲子園やパソコンの組み立て教室など、主に中学生・高校生を対象とした学びの場を設けていましたが、このサマーキャンプは同窓会の方々を含む社会人や学部生、学院生の参加を見込んでいます。

今年度の法人化による成果はまだ些細なものですが、これから少しずつ皆さんにも感じられるようになってくると思います。先程述べたようにこれから会津大学をあらゆる面で改革し、様々な試みにチャレンジしていける自由度が法人化にはあると思います。

3. 平成19年度の抱負・目標についてお聞かせください。

まず、カリキュラム改定については提出された案を議論している段階ですが、早いうちに具体的な内容を教員、学生に報告できるようにしたいです。

ITスペシャリストの企画については、具体的な内容を検討している最中です。例えば、最先端技術や現在のソフトに対するニーズについての講義をして頂けるよう依頼し、ご賛同を得ている海外の先生あるいは日本の民間企業はもう決まっております。

サマーキャンプは、まだ企画を立ち上げる段階ですのではっきりしたことは何も決まっておりません。ITに関する様々な問題を提起し、それについて議論を進める形を予定しております。また現在、ソフトウェアが起こす誤動作の対処についてのシンポジウムを会津大学で行って欲しいという話が出ています。すでに身の回りにはソフトウェアが溢れ、ソフトウェアの信頼性が非常に重視される時代になりつつあります。今後はミッション・クリティカルなシステムを作っていくことが大切です。そういったこれからのことをサマーキャンプで議論していければとも思っております。

このように、一つ一つを具体化する年にしたいです。

4. 同窓会について何かありましたらお願いします。

同窓会とは総会などでしか、今までそれほど深い付き合いはありませんでした。しか

し10月30日の「Doing Local Challenging Global」を以って、1期生の上野氏とつながりが出来ました。これをきっかけに、大学と同窓会が深いつながり、連携を持てたらと思います。そして、学生の為に『コンピュータ理工学のすすめ』をはじめ、同窓会の方々にも講義をするなどして、ご協力いただけたらと思います。また、先程述べたように社会人向けの企画も検討中ですので、知識を研ぎ澄ます為に参加してもらいたいです。

これから同窓会の皆さんには、本学での講演や社会人教育などで沢山接点が出来ると思います。そうして法人化してからの活動が活発化する中で、我々からも接点を作りますが同窓会の皆さんをはじめ社会人からの接点が増加してほしいです。

5. 最後に一言お願いします。

昨今では会津大学を出て大企業に就職したり、ベンチャーを立ち上げたりと自らの希望を叶えている学生が大勢います。これからは、その様な学生の多種多様に及ぶ希望に沿うように積極的な大学院・学部の教育内容の見直し等の改革を進め、同窓会の方々も関わってくるような企画を具体的に進めていきます。そして、本学は学生が満足できるような知識を提供するなどのサポートをしていきたいです。

本日は年末のお忙しい中、貴重な時間を割いて本取材に御協力頂きました。会津大学が法人化をしてまだ一年目ですが、これからの益々の発展に繋がる御活躍を期待しております。

誠にありがとうございました。

..... 角山学長 略歴

氏名 角山 茂章(つのやま しげあき)
生年月日 昭和18年12月7日生
本籍地 神奈川県

昭和42年 東京大学理学部物理学科卒業
日本原子力株式会社事業総合研究所入社
昭和50年 米国GEと共同研究のため米国駐在(1年間)
昭和60年 日本原子力学会技術賞 受賞
平成2年 東芝原子力研究所 管理部担当部長
平成9年 東芝原子力システム社 技監
平成13年 アイテル技術サービス フェロー
平成14年 会津大学 産学連携センター 教授
平成15年 会津大学 副学長
平成18年 会津大学 理事長・学長、現在に至る

大学の近況

今年度、会津大学はドイツのデュッセルドルフ専門大学、アメリカのローズハルマン工科大学、韓国の釜山国立大学、同国高麗大学、中国の上海交通大学の五大学と、大学院はスウェーデンのウメオ大学との交流協定を締結しました。主な協定内容として、学生の交換留学や教員の交流、両大学の教授・研究者による共同研究があります。

また、独立行政法人海洋研究開発機構と地球シュミレータに関する基本協定を締結、マイクロソフト株式会社、株式会社エフコムと福島県域IT産業活性化事業に関する包括基本協定を締結しました。これにより会津大学及び地域産業の活性化が期待されます。

本学マルチメディアシステム学講座の教員及び学生の研究結果が「サイエンス」に掲載されました。AMC 国際大学対抗プログラミングコンテスト国内予選を本学学生のチーム「clax」が二位で通過、コンピュータソフトウェア学科山上智幸助教授の研究が(株)マツダ財団の2006年度研究助成に採択されるなど、学生、教員の活躍が目立つ年でもありました。今後も学生、教員の活躍が期待されます。

4月1日	会津大学独立行政法人化
5月16日	ドイツのデュッセルドルフ専門大学と交流協定
5月29日	アメリカのローズハルマン工科大学と交流協定
6月2日	会津大学の研究成果がサイエンスに掲載
7月5日	ACM プログラミングコンテスト国内予選を上位通過
7月7日	韓国の釜山国立大学と学部間交流協定
7月11日	中国の上海交通大学と交流協定
7月26日	中国の湖北大学の教員を受け入れ研究交流を行う
7月27日	地球シュミレータに関する基本協定の締結
8月29日	サンデー毎日大学ランキングでIT分野トップ
9月1日	はやぶさサイエンスウィーク報告
9月6日	マイクロソフト株式会社、株式会社エフコムと基本協定
9月21日	韓国の高麗大学と協定、国際学会共催 インターネット版 TOEFL テスト会場に決定
9月26日	ローズハルマン工科大学で学生が海外研修 中国の復旦大学の教授らが来学
9月29日	国際戦略本部長が中国を訪問、交流協定締結
10月23日	国際ワークショップ IWTND06 を開催
10月31日	本学教授の研究がマツダ財団の研究助成に
11月14日	パソコン甲子園2006 本選大会開催
11月20日	ローズハルマン工科大学の学長らが来学 ウメオ大学デザイン研究所長らが来学
11月28日	日中合同ワークショップ FCST2006 報告
12月6日	中日友好協会の会長らが来学

資格取得状況

学生のコンピューターの専門知識・英語能力の向上に資するため情報処理技術者試験合格者やTOEIC・TOEFLの高得点者に奨励金を支給しています。平成19年度1月31日現在までの支給対象者は以下の方々です。

< 情報処理技術者試験 > 24名

テクニカルエンジニア（ネットワーク）：（4年生）林 誠也

ソフトウェア開発技術者試験：

（1年生）関根拓也、田山貴士

（2年生）江川浩一、太田賢治、武石直人、橋本 広

（3年生）太田洋輔、大和田大輔、柴田宗由、関 結子、高田晴彦、長尾大樹、畑 太基、
洞口耕史、松本和也、目黒博隆

（4年生）林 誠也、岩瀬陽映、川野亮平、小島加愛、高原幸司、舟窪恵一、町野高哲

< 語学試験 > 5名

TOEFL（コンピュータベース213点以上）：（3年生）五十嵐善行

（4年生）脇本健弘

TOEIC（730点以上）：（2年生）泉 聖矢

（4年生）岩瀬陽映、谷本有紀

情報処理技術者試験学年別合格者数

年度	期別	種別	学部				院(博士前期)		院(博士後期)			計	合計	
			1	2	3	4	1	2	1	2	3		試験別	全合計
18年度	春期	ソフトウェア		1	3	2						6	24	81
		基本情報		3	9	5	1					18	54	
		データベース										0	0	
		エンベデッド										0	0	
		初級シスアド				1						1	3	
	秋期	基本情報		12	17	6		1				36		
		初級シスアド				2						2		
		ソフトウェア	2	3	7	3	2	1				18		
		アプリケーションエンジニア										0	0	
		ネットワーク										0	0	
		情報セキュリティ									0	0		
19年度	春期	ソフトウェア										0	0	0
		基本情報										0	0	
		データベース										0	0	
		エンベデッド										0	0	
		初級シスアド										0	0	
	秋期	基本情報										0		
		初級シスアド										0		
		プロジェクトマネージャー										0	0	
		アプリケーションエンジニア										0	0	
		ネットワーク										0	0	
		情報セキュリティ									0	0		

2006 年度就職状況

1 学部

(2007.1.31現在)

	ソフトウェア学科				ハードウェア学科				学部計				平成17年度(1月31日現在)				
	進路希望	女子	決定者数	女子	進路希望	女子	決定者数	女子	進路希望	女子	決定者数	女子	進路希望	女子	決定者数	女子	
就職	民間企業	114	23	112	22	34	4	32	4	148	27	144	26	142	19	129	18
	県内	-	-	12	2	-	-	3	0	-	-	15	2	-	-	15	2
	県外	-	-	100	20	-	-	29	4	-	-	129	24	-	-	114	16
	内定率(%)	98.2				94.1				97.3				90.8			
	教員	6	1	1	0	4	2	0	0	10	3	1	0	8	7	0	0
	公務員	1	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	3	1	1	0
	起業					1	0			1	0	0	0	1	0	0	0
	家業									0	0	0	0	0	0	0	0
小計	121	24	113	22	40	6	32	4	161	30	145	26	154	27	130	18	
進学	本学大学院	36	3	25	1	13	3	12	3	49	6	37	4	47	4	39	3
	他の大学院	5	0	5	0	2	0	1	0	7	0	6	0	12	0	9	0
	海外の大学院	1	0			1	1			2	1	0	0	5	2	0	0
	小計	42	3	30	1	16	4	13	3	58	7	43	4	64	6	48	3
その他(*)	5	2	1	1	1	0	0	0	6	2	1	1	5	1	0	0	
留年・休学	24	2	24	2	50	1	50	1	74	3	74	3	66	2	66	2	
未回答	2	0			1	0			3	0	0	0	13	0	0	0	
合計	194	31	168	26	108	11	95	8	302	42	263	34	302	36	244	23	

2 大学院(博士前期課程)

	情報システム学				コンピュータシステム学				大学院計				平成17年度(1月31日現在)				
	進路希望	女子	決定者数	女子	進路希望	女子	決定者数	女子	進路希望	女子	決定者数	女子	進路希望	女子	決定者数	女子	
就職	民間企業	35	3	35	3	21	2	21	2	56	5	56	5	59	6	56	6
	県内	-	-	2	1	-	-	1	0	-	-	3	1	-	-	6	1
	県外	-	-	33	2	-	-	20	2	-	-	53	4	-	-	50	5
	内定率(%)	100.0				100.0				100.0				94.9			
	教員					1	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0
	公務員					1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	起業					1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0
	家業									0	0	0	0	0	0	0	0
小計	35	3	35	3	24	2	22	2	59	5	57	5	61	6	56	6	
進学	本学大学院	4	0	3	0	0	0	0	0	4	0	3	0	4	0	4	0
	他の大学院									0	0	0	0	1	0	0	0
	海外の大学院									0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	4	0	3	0	0	0	0	0	4	0	3	0	5	0	4	0
その他(*)	2	0	0	0	4	0	1	0	6	0	1	0	2	1	0	0	
留年・休学	2	0	2	0	3	0	3	0	5	0	5	0	6	0	6	0	
未回答	2	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	8	1	0	0	
合計	45	3	40	3	32	2	27	2	77	5	67	5	82	8	66	6	

県内企業就職

学部	12社	15名
大学院	3社	3名

求人数

県内	33件	65人
県外	1,052件	2,100人
計	1,085件	2,165人

東証1部上場企業

学部	18社	21名
大学院	21社	27名

は県内企業

は東証一部上場企業 (2007.1.31現在)

<学部>

企業名	人数	企業名	人数	企業名	人数
ASL	1	サイボウズ	1	日本ビジネスコンピューター	1
CSK Winテクノロジー	1	さくらケーシーエス	2	ニラク	2
E-RA	1	サッポロライオン	1	任天堂	1
ISIDインターテクノロジー	1	サトー	1	ノーザンシステムエンジニアリング	1
NECインフロンティア	1	ザナヴィ・インフォマティクス	1	ハイテックシステム	1
NECエンジニアリング	3	シグマ	2	浜松ホトニクス	1
NECシステムテクノロジー	1	静岡岡コンピュータサービス	1	バンダイネットワークス	1
NEC情報システムズ	1	システムクオート	1	ピーシーワークス	1
NECソフト	1	システムデザイン	1	東機エレクトロニクス	1
NECソフトウェア東北	3	システムプランニングアンドエンジニアリング	1	東日本旅客鉄道	1
NECワイヤレスネットワークス	1	秀英予備校	1	日立エスケーツーシャルシステム	1
NTTソフトウェア	1	シュルンベルジェ	1	日立エンジニアリング・アンド・サービス	1
NTTデータイントラマート	2	シンク	1	日立コミュニケーションテクノロジー	1
NTTデータカスタマサービス	1	住商情報システム	1	日立システムバリュー	1
NTTデータネット	1	セガ	1	日立情報システムズ	2
NTTデータフロンティア	1	セントラル情報センター	1	日立ソフトウェアエンジニアリング	1
Spanion Japan	1	総警情報システム	1	ビッツ	1
SSBソリューション	1	ソニーLSIデザイン	1	ヒップ	1
アイエックス・ナレッジ	2	ソニーエナジー・デバイス	3	ヒューマンクレスト	1
アイシン・エンジニアリング	1	ソフトバンク・テクノロジー	2	福島コンピューターシステム	1
アイシンク	1	ソラン	1	フジオネ・テクノソリューションズ	1
会津オリンパス	1	ダイエー	1	富士ソフト技研	1
会津信用金庫	1	ダイヤモンドコンピューターサービス	1	富士通	1
あさかわシステムズ	1	テクノバン	1	フシミコーポレーション	1
アビリティ・インタービジネス・ソリューションズ	1	テブコシステムズ	1	プライム・テック	1
アブクマ	1	東京三菱インフォメーションテクノロジー	1	プライムワークス	1
アルトナー	1	東北ソリューションサービス	1	フリープランニング	1
アルプス技研	1	東北大学(技術職員)	1	松下ネットワークオペレーションズ	1
医療システムズ	1	トーアエイヨー	1	みずほ情報総研	1
インクスエンジニアリングサービス	1	東北システムズ・サポート	1	三菱電機インフォメーションシステムズ	2
インフォコム	2	凸版印刷	1	三菱電機メカトロニクスソフトウェア	1
インフォメーションクリエイティブ	1	トヨタテクノカルディベロップメント	2	メイテック	1
ヴァインキュラムジャパン	1	トランスネット	1	メイテツコム	2
エリジオン	1	ニコン	1	モンテローザ	1
オーグス総研	1	日興システムソリューションズ	1	ヤフー	2
オフィスブレイン	1	ニッポンダイナミックシステムズ	1	ユニアデックス	1
オリンピア	2	ニフティ	1	ユニデン	1
ガイア	1	日本SGI	1	ラック	1
キヤノン電子	1	日本ソフトウェア	1	両毛システムズ	1
キリンビジネスシステム	1	日本コムシス	1	ワイズノット	1
クロスキャット	1	日本デジタル研究所	1	計	144
コンピュータシステムエンジニアリング	1	日本電気通信システム	2		

<大学院>

企業名	人数	企業名	人数	企業名	人数
JFEシステムズ	1	アルパイン技研	1	凸版印刷	1
JR東日本情報システム	2	オリンパス	1	日亜化学工業	1
JSAT	1	川崎マイクロエレクトロニクス	1	日商エレクトロニクス	2
NECエレクトロニクス	2	キヤノン	1	日本SGI	1
NEC情報システムズ	1	ケーヒン	1	日本オラクル	1
NECソフト	1	ケンウッド	2	日本総合研究所	1
NECソフトウェア東北	1	コナミデジタルエンタテインメント	2	野村総合研究所	1
NECマイクロシステム	1	シンク	1	東日本旅客鉄道	1
NECワイヤレスネットワーク	1	セコム	1	日立コミュニケーションテクノロジー	1
Nexon Asia Pacific Pty	1	仙台商工団地情報処理センター	1	日立情報システムズ	2
NTTコムウェア	1	セントラル情報センター	1	日立製作所	1
NTTデータ	1	大日本印刷	3	日立ソフトウェアエンジニアリング	1
NTTデータクリエイション	1	東海旅客鉄道	1	富士通	1
Spanion Japan	1	東京海上日動システムズ	1	富士通コンピュータテクノロジーズ	1
アイシン精機	1	東芝システムテクノロジー	1	北陸基礎技術工業	1
会津オリンパス	1	東芝ソリューション	1	ミクニ	1
				計	56

同窓会事業報告

総会報告

平成18年度会津大学同窓会総会が、平成18年10月7日(土)午後4時から会津大学研究棟S1講義室で開催されました。当日は同窓生役員約20名が出席し、今後の同窓会について議論しました。また、学生課からも2名が出席されました。

事務局長が会の進行及び資料説明を行い、議事録等のサポートを運営委員が努めました。まず、会長が冒頭に挨拶をおこないました。その後、議長選出により上野会長が議長に選出され、議事に入りました。

議事では、まず、報告承認事項として、事務局長より17年度の事業報告及び収支決算報告をいたしました。報告事項の後、審議承認事項として、第1号議案平成18年度事業計画案及び第2号議案平成18年度収支予算案について出席された会員の皆様に審議いただき、いずれも原案どおり承認され、閉会となりました。限られた時間の中で、全国から集まった同級生役員が真剣に議論を交わしました。

また、総会終了後、会津大学後援会との合同で懇親会を開催しました。参加者全員が今後の会津大学について意見を交わし、交流を深めました。

総会の様子



懇親会の様子



平成17年度事業報告

1. ホームページ

同窓会事業の告知と事業への参加促進を目的とし、ホームページの整備を行いました。内容としては、同窓会会則、役員及び、方向性等に関する情報の公開です。また、同窓生の住所録作成のため、所在地の入力手段の提供を同ホームページ内に整備しました。

2. 同窓会誌

「今の会津大学を知る」を目的に、同窓会報の作成をしました。内容は、独立行政法人化、学生の資格取得状況、就職状況、総会報告、取材に関しては池上学長に行い、記事の掲載をしました。配布方法としては、Webからのダウンロードを主としています。

3. 総会及び懇親会

一年の経緯として、総会で、平成16年度事業報告及び決算報告を行うとともに平成17年度の事業計画及び予算が承認されました。さらに、任期満了に伴う役員の改選、規約変更を行いました。

また、より多くの方に参加をして頂くために会津大学の学園祭と同時期に開催しました。交流会に関しては、会津大学後援会と合同で開催し、会津大学「櫛」にて行いました。

平成17年度同窓会収支決算

収入の部 (単位:円) 表1

科目	予算額	決算額	摘要
前期繰越金	2,607,558	2,607,558	平成16年度より繰越
会期	2,480,000	2,480,000	13期生248名×10,000円
雑収入	10	39	預金利子
合計	5,087,568	5,087,597	

支出の部 (単位:円)

科目	予算額	決算額	摘要
事業費	800,000	800,000	会報・HP委託費
懇談会補助費	300,000	0	
雑費	50,000	14,364	消耗品・諸会費
管理費	50,000	17,430	回線費・サーバー維持費
旅費	500,000	165,660	出席役員旅費
郵送費	180,000	102,800	総会通知費
予備費	300,000	0	
合計	2,180,000	1,100,254	

収支決算額

収入総額 5,087,597 円

支出総額 1,100,254 円

繰越金 3,987,343 円

平成18年度事業計画(案)

1. ホームページ

同窓会事業への理解・広報と参加促進を目的とし、ホームページの運営を行います。内容としては、会津大学同窓会に関する情報、会津大学に関する情報を掲載するものとします。

2. 会報誌

卒業後、会津を離れた同窓生、また、会津にいらがらも、会津大学からは離れた同窓生に対して、会津大学の状況や、同窓生の状況を伝えることを目的とします。

3. 交流会

実際の再会の場の提供を交流会により実施します。総会と合わせた懇親会の開催のほか、支部単位での交流会開催など同窓生が参加しやすい工夫を行います。

4. 独立行政法人化記念事業への支援

会津大学が主催する独立行政法人化記念事業「日経ビジネスクリエーション塾」への支援を行います。

平成18年度同窓会収支予算(案)

収入の部 (単位:円) 表2

科目	本年度予算	前年度予算	摘要
前期繰越金	3,987,343	2,607,558	平成17年度より繰越
会費	2,490,000	2,480,000	14期生249名×10,000円
雑収入	40	10	
合計	6,477,383	5,087,568	

支出の部 (単位:円)

科目	本年度予算	前年度予算	摘要
事業費	500,000	800,000	会報・HP委託費
交流会補助費	300,000	300,000	
雑費	50,000	50,000	消耗品・諸会費
管理費	50,000	50,000	回線費・サーバー維持費
旅費	500,000	500,000	出席役員旅費
郵送費	180,000	180,000	総会通知費
負担金	1,000,000	0	独立行政法人化記念負担金
予備費	500,000	300,000	
合計	3,080,000	2,180,000	

収支予算額
 収入予算額 6,477,383 円
 支出予算額 3,080,000 円
 繰越予算額 3,397,383 円

役員一覧

役職	氏名
会長	上野文彦
副会長兼会津支部長	渡邊信勝
副会長兼東京支部長	野山孝太郎
副会長兼仙台支部長	桜井一徳
副会長兼大阪支部長	相馬正継
理事	佐藤和彦

理事	大堀満
理事	高橋朋也
理事	板橋秀樹
理事	野仲真佐男
事務局長	小林呂嘉
監事	小野洋
監事	高梨哲也

= 編集後記 =

会報誌の作成は初めてのことなので緊張しました。多くの人のご協力があった、同窓会会報誌を完成させることができたと思います。協力して下さった皆さまに感謝の言葉を申し上げます。

【会津大学新聞部 板垣拓也】

会津大学新聞部

〔発行〕会津大学同窓会
 〔住所〕〒965-8580 会津若松市一箕町鶴賀字上居合90 会津大学学生課
 〔電話〕0242 - 37 - 2600
 〔FAX〕0242 - 37 - 2526
 会津大学同窓会

2007 禁無断転載